

第7期（2022年度）事業報告

1. 理事会履歴

決議事項

特になし。

報告事項

・ 毎月次事業報告

月末の定例会の時期に合わせて、事務局より月次報告書をメール配信し、毎月報告致しました。

その他、News Letterにて四半期毎に財務面を含めた運営状況を報告し、必要な情報の共有化を行いました。

2. 協力医師よりの症例登録

- ・ 2022年度総数 425 件 ：アレルギー性 391 件、非アレルギー性 34 件

3. 賛助会員企業の募集

- ・ 新規入会 4 社 （2021年度末退会 1 社）

2022年度末会員 賛助会員企業数=116社(4社増)、会費口数=156口(5口増)

*参考：第6期 賛助会員企業数=113社、会費口数=152口

賛助会員企業数の変遷

		2019	2020	2021	2022
年初	賛助会員数	103	113	112	112
	口数	142	152	151	151
最終	賛助会員数	115	116	113	116
	口数	155	155	152	156

- ・ 個別訪問は行わず、問い合わせに対してオンライン説明会を実施しました。

・ 広報活動

日本香粧品学会

- ✓ 第47回日本香粧品学会要旨集に後付け1/2頁の広告を掲載しました。

学会発表・雑誌掲載・講演会

- ✓ 学会発表

成分提供の仲介等を行った皮膚科医の先生方に、共同演者に加えていただき、

SSCI-Net の活動を紹介していただきました。

- 第 121 回日本皮膚科学科総会、三村慶子先生（横浜市立大学附属市民総合医療センター皮膚科）ら：「市販のシャンプーに含まれたポリクオタニウム-10 による接触皮膚炎の 1 例」
- 第 73 回日本皮膚科学会中部支部総会、欠田成人先生（済生会松坂総合病院）、水野彩加先生（三重大学）ら：「ダーマボンド®アドバンスドの 2-オクチルシアノアクリレート(2-octylcyanoacrylate)による接触皮膚炎症候群の 1 例」
- 第 73 回日本皮膚科学会中部支部総会、松永佳世子先生（藤田医科大学）ら：「カラートリートメントに含まれた 3 種の塩基性染料と 1 種の HC 染料によるアレルギー性接触皮膚炎の 1 例」
- 第 52 回日本皮膚免疫アレルギー学会、飯島茂子先生（はなみずきクリニック）ら：「頭部等皮膚炎患者に対するココミドプロピルベタインおよびその不純物によるパッチテストの検討」
- 第 52 回日本皮膚免疫アレルギー学会、欠田成人先生（済生会松坂総合病院）ら：「リドカイン含有局所麻酔テープに含まれた塩酸リドカインによる接触皮膚炎の 1 例」
- 第 303 回日本皮膚科学会東海地方会、欠田成人先生（済生会松坂総合病院）ら：「多数の成分に感作が証明されたラナケイン S による接触皮膚炎 ～SSCI-Net 活用のすすめ～」

✓ 論文掲載

- 鈴木加余子先生より、SSCI-Net による成分提供の仲介により原因成分が確認された症例として以下の論文の共同演者に加えていただきました。

Allergic contact dermatitis caused by dimethicodiethylbenzalmalonate (polysilicone-15, Parsol SLX) and bis-ethylhexyloxyphenol methoxyphenyl triazine (Tinosorb S) in sunscreen cream. Contact Dermatitis, Vol87(1), 2022, 108-110.

- アレルギーの臨床 2022 No. 573 特集「化粧品とアレルギー・皮膚障害事例」に「化粧品によるアレルギーや皮膚障害事例の最小化に向けた取り組み」を掲載していただき、皮膚科医に向けた広報を行いました。
- FRAGRANCE JOURNAL 2023/2 月号 特集「接触皮膚炎を知る」において、コラム「SSCI-Net の果たす役割 市販後情報を製品開発に活用するには」を掲載していただき、化粧品企業に向けた広報を行いました。

✓ 成書掲載

- 技術機構(株)より「皮膚の安全性・製品の安全性に関連する試験の基礎と注意点（関東裕美先生監修）」が発刊され（2023年1月24日）、「第5章 一般用品による皮膚健康被害に関する SSCI-Net の仕組みと関連省庁との連携」を収載していただき、化粧品企業に向けた広報を行いました。
- ✓ 講演会
 - 第52回日本皮膚免疫アレルギー学会ハンズオンセミナーにて、SSCI-Net の臨床支援について杉山が講演致しました（2022年12月18日）。
 - 日本化粧品工業連合会「安全性評価セミナー 初級・実践入門」の講演会が開催されました。講演では、SSCI-Net の紹介と成分パッチテストの推進について従来通り案内していただきました（2022年6月28日、10月26日）。
- ✓ 学会展示
 - 第52回日本皮膚免疫アレルギー学会ハンズオンセミナーにて、SSCI-Net 臨床支援に関する説明をセミナー参加者に配布致しました。

4. 業務改善実績

・システム再構築について

4月よりシステム再構築のプロジェクトを開始し、予定通り11月に新システムに切り替えを行いました。過去データの移行は、適切に行われましたので、新旧サーバの併用期間は1か月のみでした。動作速度は、システム再構築により迅速な動作・レスポンスが可能となり、先生方の登録におけるストレス、企業の検索におけるストレスが軽減されました。また、登録画面を現状に即して必要な情報が入手できるようになりました。

4月：プロジェクトキックオフ

5月：医師・企業・省庁向けログイン後のワイヤーフレームの確認

6月：医師向け症例登録・パッチテスト結果登録画面の構築

7月：登録画面の調整

8月：過去データのクリーニング

9月：過去データの移行テスト

10月：過去データの移行

11月：新システム登録テスト、新システムに切り替え、旧システムの削除

〈システム構築総費用〉：¥14,251,435

症例 Web システムリプレイス：¥11,305,525

保守費用（旧サーバ）2022/4-2022/11：¥2,002,000

保守費用（新サーバ）2022/11-2023/3：¥943,910

〈2023年度からの年間保守費用〉

作業費用：¥1,680,000、Azure および動画 Vimeo 費：¥379,940 合計：¥2,059,440

（旧サーバを含む保守費用は、¥3,410,000）

今回、2016年に旧システムの利用を開始してから6年目に改修を行いましたので、今後ともシステムの定期的な更新が必要になると思われます。今回サーバの入れ替えにより、保守費用が約135万円削減できたこと、および年間正味財産増加が200万円以上見込めることから、次回のシステム更新資金の蓄積は問題ないと考えています。

5. 情報発信活動

・ News Letter の発行

毎月10日に発行し、延べ12回に亘り時宜に即した情報を関係者へ配信しました。

シリーズ「SSCI-Net 症例登録から抽出された課題と取り組み」の原稿ご担当

松永佳世子理事長3回、矢上晶子理事2回、鈴木加余子理事2回

理事以外の皮膚科医への依頼：二村恭子先生（藤田医科大学ばんだね病院総合アレルギー科）、欠田成人先生（済生会松阪総合病院）

松永先生のジェルネイルに関するコラムでは、渡部 裕子先生（わたなべ皮ふ科形成外科）、萩原 直見先生（株式会社 Future Nail）にもご協力いただきました。

また、皮膚刺激性に関する情報提供を杉山より行いました。

臨床医によるコラムは、毎回好評で、発行後に賛助会員から問合せをいただくことがあります。化粧品等の製造販売企業においては、リアルな皮膚障害状況を入手できる貴重なメディアとして楽しみにしているとの声が寄せられています。

・ 特定成分に関する皮膚障害症例発生件数の問合せ

本年度は、41企業より111成分の問い合わせがありました（2021年度：32企業、72成分、2020年度：35企業、128成分）。賛助会員企業より、市販後情報収集ツールとして認知されてきたと思われます。

6. 産学官連携活動

第19回および第20回化粧品等のアレルギー情報共有化推進連絡会は、いずれも新型コロナウイルス感染状況が落ち着かず、オンライン会議形式で開催致しました。

・ 第19回連絡会

2022年7月6日に開催し、43名（理事を含む）にご参加いただきました。SSCI-

Net より、2021 年度登録症例を化粧品、医薬品および家庭用品等について概要およびトピックを理事長および理事より報告した後に、「C.I. Solvent Orange 60 によるアレルギー性接触皮膚炎の課題への取り組み」について第 19 回の議論の後の活動について松永理事長より報告致しました。

また、佐々木和実先生（製品評価技術基盤機構）からは「令和 3 年度、NITE 皮膚障害関連実績と令和 4 年度の状況」、河上強志先生（国立医薬品食品衛生研究所）からは「家庭用マスク中のホルムアルデヒド及び分散染料」を共有化もしていただきました。

・第 20 回連絡会

2022 年 12 月 21 日に開催し、38 名（理事を含む）にご参加いただきました。

SSCI-Net より、2021 年度登録状況の最終的な数字をご案内し、化粧品、医薬品および家庭用品等について概要およびトピックを理事長および理事より報告致しました。国立医薬品食品衛生研究所 河上強志先生より登録症例について分析のご相談をした「加硫促進剤不検出と表記された合成ゴム手袋におけるアレルギー性接触皮膚炎の原因究明事例」についてもご報告いただきました。

家庭用品に係る症例を厚生労働省化学物質安全対策室に毎月報告しました。

・“厚労省家庭用品に係る症例情報の提供”（受託業務）

毎月 14 日までに前月分の家庭用品に係る症例の登録製品について、報告を実施しました。なお、2021 年度に関しては、以下に「家庭用品に係る健康被害の年次とりまとめ報告」が公開されています。

<https://www.mhlw.go.jp/content/11124000/001023951.pdf>

7. 学術活動

・SSCI-Net で収集された症例情報の研究成果の関係学会発表および雑誌投稿

- ✓ 学会発表
 - 第 52 回日本皮膚免疫アレルギー学会にて、松永理事長より「SSCI-Net 2021 年度アレルギー性皮膚障害例のまとめ」を発表していただきました。
 - 第 52 回日本皮膚免疫アレルギー学会にて、接触皮膚炎研究班（松倉節子先生：丸子中央病院）の「Japanese baseline series 2015 の 2021 年度陽性率」の発表に JBS データを提供しました。
- ✓ 成書
 - 「製品別でみる接触皮膚炎 原因アレルゲンと代替品」（監修：松永佳世子、発行：学研メディカル秀潤社）が 5/31 に出版され、総論「アレルギー性接触皮膚炎の原因製品：SSCI-Net 最近 5 年間の統計から」にデータを提供しました。

8. 臨床支援活動

接触皮膚炎の原因成分の検討のための仲介依頼が増えてきました。皮膚科医の先生方にとって、患者さまのアレルギー性接触皮膚炎の原因成分を特定することによってQOL改善を目指すという観点で必要であるだけでなく、原因成分を特定いただければ、賛助会員企業への情報提供を通じ、安全な製品開発につなげることができます。このような側面も含めて、積極的に原因成分を特定すべく臨床支援を推進しています。賛助会員企業には、成分パッチテスト実施のための原料提供には、積極的に協力をいただいています。また、家庭用品や医療機器などの分析を含めた相談も増えており、製品評価技術基盤機構や国立医薬品食品衛生研究所と連携を密にして進めております。

仲介実績（2023年3月15日調べ）

対応開始時期	依頼総数	分析依頼
2019	30	0
2020	30	3
2021	31	3
2022	46	8

9. SSCI-Net 関係者内に限定した医療施設紹介

本年度は、4例の紹介打診がありました。2例について医療施設に紹介し、2例は候補となる医療施設を選定し、企業より患者さまに打診していただいています。紹介制度においては、課題として1)紹介可能な医療施設が限定されているため、患者さまの近隣で紹介医療施設を探すことが難しい場合があること、2)企業患者さまと企業のコミュニケーションが十分ではないために、企業と患者さまの意思がずれている場合があること、を経験しています。2)に関しては、医療施設を紹介した後、担当医に迷惑をおかけしないよう、企業より患者さまに通院・治療継続の意思を十分確認いただくようにしております。医療施設紹介制度は、企業様より定期的に打診をいただいております、有用な制度と受け入れられていると感じています。

10. 役員人事

本定時社員総会における辞任および新任理事候補は、以下の予定です。

役員辞任) 2023年5月14日

理事 尾関 宏之

役員候補) 2023年5月14日

理事 佐倉 正明